



篠小だより

～学ぶ つながる 篠原の子～

令和4年9月30日

10月号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目27番1号 Tel.045-401-9532 fax045-431-9538
横浜市立篠原小学校 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shinohara/>

ピンチをチャンスに

校長 松久保 伸子

「先生、飼育小屋のニワトリがけがをしたから、赤チンぬってください。」

大きな雄鶏を抱きかかえ、保健室に入った6年飼育委員の私は、大きな声で叫びました。赤チンはもう知らない方も多いですよね。透明の消毒液が販売される前のけが用消毒液です。かつて保健室には常備されていて、色が真っ赤なので、ぬったあとも赤く残ります。その児童用の消毒液をニワトリに使ってほしいと依頼したこと、保健室で大声を出したこと、大きな雄鶏を保健室に連れ込んだこと、指導を受ける要素は満載ですので、当然養護の先生からおしかりを受けました。保健室で雄鶏を抱えたまま指導を受ける図は、なかなかシュールであったと思います。6年生の私としてもピンチな状況でありましたので、かなりはっきりと記憶している出来事です。しかし、この出来事をきっかけに養護の先生とたくさん話せるようになり、卒業までずいぶんお世話になりました。私にとってはピンチがチャンスに変わった出来事だったのです。

篠原小学校にもピンチが訪れています。今年度同様、次年度にもさらなる学級増が見込まれるため、再度教室増設工事を行うことになりました。3階多目的室を新図工室に、現図工室を2つの教室に作り替えます。工事現場に囲いを作るため廊下が狭くなったり、給食のワゴン運搬が一時できなくなったりするなど、子どもたちの学校生活に影響があります。PTAの荷物も移動しなければいけません。土曜日・日曜日にも工事が入りますので、キッズクラブや学校開放、近隣の方にもご迷惑をおかけします。学校にとっては大ピンチです。しかし教室不足のまま新年度を迎えるわけにはいきませんので、対応せざるをえません。どうぞご理解くださいますようお願いいたします。

さて工事に入る前にと、図工室ショーケースに入っていた、地域の皆様から寄贈いただいたと思われる昔の生活用品を校長室に運び込みました。その中に懐かしい黒電話があったので、校長室の前に消毒液とともに展示してみると、触って試してくれる子どもたちが現れました。次第に休み時間には誰かが触っているようになりました。「どうやって押すの。」「こうやるのかな。」「押せないよ。」「右に回すんだよ。」スマホしか知らない世代にとっては、よい試行錯誤となりました。また教え合う姿も自然とみられます。子どもたちが実物に触れ、学び合うちょっとした環境になりました。ピンチがチャンスに変わったのです。さあ、次は何を置こうかな、壊れている壁掛け電話と糸車を何とか修理できないかな、さらなるチャンスを探していきます。

